

新しい作物と新しい品種を

上手に栽培するために

三浦梧棲

自給飼料増産に役立てていただくために、弊社では今春も幾つかの新作物と、新品種を発表しましたが、作付希望者も北海道から九州までの広範囲にわたっており、皆さんの圃場で立派な成績を取めるためには、よく特性を知っていただいで、作物や品種の能力を十分發揮できる栽培が大切であらうと思われまますので、以下主なものについての特性と、栽培上の注意を述べさせていただきます。

一 家畜ビート M・G・M、B・G・B

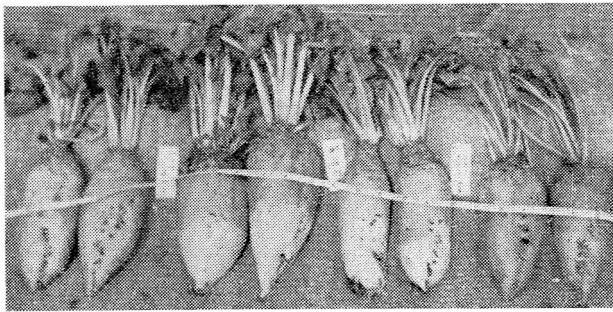
家畜ビート M・G・M と B・G・B の両品種は、従来家畜ビートの最も大きな欠陥と認められていた褐斑病に対する抵抗性品種として育成したものです。

即ち M・G・M は家畜ビートの優良品種マリエンリストに褐斑病に強い甜菜の GW 一三〇四を交配し、更に戻交配を行なつて育成したもので、B・G・B はパーレスと G・M 三〇四を同様の方法で育成したものです。

(一) 主な特性

(1) 耐病性(褐斑病)

◎上野幌育種場における調査結果では、年々北農試で全国より蒐集したビート褐斑病菌を七八系統混合した培養菌の分譲をう



ハ－シュガ－ M.G.M シュガ－マン ハ－シュガ－
エロー ゴールド レッド

耐病性程度を窺知することができると思われます。

薬部収量割合

品種	(根重割合)
シュニガール	100%
マンゴールド	100%
ハーフエロー	115
マリエンリスト	111
M・G・M	144
B・G・B	146
参考	150
G・W 三〇四	144
	146

◎道内においては北見市、清里町、名寄市、広島村等において試作を行なつた結果では、名寄市を除いてはいずれも強い耐病性を示しております。

◎府県の場合は千葉農場(千葉市)において調査した結果(県農試西原技師)では次のとおりで、相当顕著な耐病性を示しております。

品種	上野幌 (%)				千葉農場(昭三五) 10 a/kg			
	昭三三	昭三四	昭三五	昭三六	葉重	根重	総重	割合
シュニガール	100	100	100	100	100	100	100	100
マンゴールド	111	111	111	111	107	107	107	100
ハーフエロー	115	115	115	115	115	115	115	100
マリエンリスト	111	111	111	111	111	111	111	100
パーレスストリーネ	133	133	133	133	133	133	133	100
M・G・M	144	144	144	144	144	144	144	100
B・G・B	146	146	146	146	146	146	146	100

備考 千葉農場耕種概要 播種期三月三日、収穫八月六日、畦幅二〇寸、株間三〇寸、施肥量 堆肥一、八〇〇、尿素一〇(内追肥四)、熔りん二〇、過石三〇、塩加一八、石灰二〇〇(各キ)

即ち根重収量は褐斑病の被害の多い年においては相当な増収を示しますが、平年では既存の最多収品種より若干収量が低下するようです(各地での試作でも同傾向)。しかしこれは多汁な生根菜収量で、乾物含量・糖分含量等とも併せ考える必要があります。

(3) 乾物量、含糖率

以上、主要特性を要約しますと、耐病性品種 M・G・M、B・G・B は褐斑病に強く、薬部収量多く、根重収量は病害多発の

褐斑病被害程度調査成績

品種名	被害度	備考
シュニガール	三	被害度は数値の小さい
マンゴールド	三	ものほど発
ハーフエロー	三	病が少ない
マリエンリスト	三	
M・G・M	三	
B・G・B	三	

(2) 根重収量

M・G・M と B・G・B は従来の家畜ビート品種に比して、かなりの晩熟種と認められ、一方肉質の緻密(乾物含量の高い)な品種ですから、肥沃地、生育日数の十分とれる地帯において多収が期待できるわけですが、上野幌、千葉農場における年次収量割合を示すと次のとおりです。

品 種 名	含糖率 (%)		乾物 含量
	北 見	帯 広	
シュガー マンゴールド	—	—	中
ハーブエロー	—	—	中
マリエンリスト	—	—	中
パールス	—	—	中
ストリーネ	—	—	中
M・G・B	—	—	中
B・G・B	—	—	中

際は顕著な増収を示し、その他の場合は既存優良品種と同程度、また根中糖分は非常に高く、肉質も緻密でよく貯蔵に耐える特性をもっております。

(二) 栽培上注意すべき点

(1) 肥沃地を選んで栽培すること

また施肥は十分に、特に秋、肥料切れのないように、遅効性肥料を配分(熔りん、石灰窒素、堆肥等)すること。

(2) なるべく早まきすること

耐病性品種はいずれも晩熟種ですから、十分生育日数(一六〇日〜一八〇日)を与えないと根の肥大が遅れますから、他作物、他品種に先立って早播きします。生育日数が短く未熟なもの(含糖率の低いもの)を収穫している場合は、例外なく他品種に比して減収しています。

(3) 栽植本数は多目にすること

早熟品種のパールス、エッケンドルフレッド、ハーブエロー等に比して幾分小形の傾向にありますから、栽植本数はこれら品種よりも一〜二割多目に立てます。標準を示しますと、一〇坪当り七、〇〇〇株前後(畦幅六六寸、株間二四寸)が適当と思われるます。

(4) 薬剤散布の効果はありません

耐病性品種といつても発病が皆無ではありませぬ。ただ病徴の蔓延が鈍いだけの差ですから、薬剤散布による増収効果は期待できません。

交配、戻交配を行なっておりますから、まだ若干の異色個体が出ます。現況ではM・G・Mは桃色の中に四〜五%の紅色根のものが発生します。しかしこれは貯蔵性等についても同様で、支障を来たすことはないと思われます。

(5) 若干の異色個体が出る

糖分含量が高く、多給は生理的な下痢または軟便となりますから、他品種よりすくなく目に給与しましょう。

(6) 給与量は日量一五〜二〇キログラムにすること

赤クロバの新品種ハミドリは、最近各地で大きな被害をうけている赤クロバの炭疽病(開花始め頃に葉や茎に黒い斑点を生じ、これが拡大、葉は黒変、茎は折損する病気)及び銹病(茎や葉ウラに赤銹が発生)に強い品種として育成されたもので、その特性概要を記しますと、

二 赤クロバ「ハミドリ」

(一) 主要特性
 (1) 中熟品種 赤クロバの在来種に比し開花期が約二週間早く、晩生種のアルタースエーデに比し二週間内外早く、中生種として取り扱うべきでしょう。
 (2) 草丈高く分枝多し 赤クロバの収量構成の主要形質とみなされる草丈、分枝は、他品種特に在来種に比して優つています。

(3) 耐病性は炭疽病、銹病については顕著な差を示しており、強い抵抗性が認められます。

(4) 収量は一年目より多収 とかく赤クロバは晩生化するに從つて初年目の収量が低い傾向にあります。ハミドリは一年目より多収を示しております。即ち上野幌育種場における成績を示すと次表のとおりで耐病と共に多収な品種です。暖地における試作調査は地域、年次も少なく正確な判定はまだできませんが、千葉農場、九州農試等における試作結果ではケンランドが優れているようで、ハミドリの現在の調査範囲では、寒冷地の耐病多収品種に限定取り扱うべきものと思われます。

赤クロバ収量割合(%)

在 来 種	条 播 区		撒 播 区	
	一年目	二年目	一年目	二年目
ハミドリ	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
メジウム	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
ケンランド	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七
アルタースエーデ	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七

(5) 生存年数も長い アルタースエーデほどではありませんが、生存年数も在来種に比して永く三〜四年の利用年限を期待できましよう。

即ち上野幌育種場における三年目の収量比較をみると、在来種に対し二二六%の収量を得ており、生存年数(利用年数)の長いことを示しています。

(二) 栽培上の注意

以上の特性に鑑み、耐病性赤クロバの新品種ハミドリは、

(1) 炭疽 銹病の被害地帯で栽培すること。

(2) 伸長 多枝系ですから、撒播よりも条播が多収、撒播の場合は密播に過ぎないこと。

(3) 他牧草の混播 特にオーチャードとの混播では慣行観念から来る開花期刈取りでは在来種に比し約二週間晩生ですから、相手牧草の遅刈り、硬化を招きますから、他の優占草種の適期(ハミドリの早刈り)刈りを行なうようにします。

三 青刈菜豆サットンスペシール

エンシレージ用デントコーンの高蛋白質を目的として、豊科作物の混作が取り上げられておりますが、その作物の一つとして今春から発売されたものが、青刈菜豆サットンスペシールです。晩生のある性菜豆で、葉も比較的大きく、着葉数の多いことが飼料栽培に選ばれた大きな特性でしょう。

栽培上注意すべき点

(1) 播種はなるべく支柱作物であるデントコーンの株元に行なうこと(一株二〜三粒)。

(2) サットンが遅まきすること。夏の後半迄は常に支柱作物であるデントコーンを先伸ばすような生育が必要で、このためには寒冷地ではデントコーンの四〜五葉期、即ち発芽後二〜三週間後(大体一番除草頃)の遅まき、また暖地では高温時期に播種しますから、同時まきでもデントコーンの生育が旺盛ですから差支えないでしょう。

サットンスペシールの播種時期と収量の関係を上野幌育種場において調査したところでは次のとおりで、四〇日くらいの遅まきでも相当量の青刈菜豆が得られます。同時または早まきはデントコーンの倒伏が多くなります。